

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません。

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	補足-40-3 改 11
提出年月日	平成 30 年 8 月 1 日

工事計画に係る補足説明資料

安全設備及び重大事故等対処設備が使用される条件の下に

おける健全性に関する説明書のうち

補足-40-3 【環境条件における機器の健全性評価の
手法について】

平成 30 年 8 月

日本原子力発電株式会社

1. 概要

安全設備及び重大事故等対処設備が使用される条件において機器が有効に機能を発揮することについては、各設備が「実用発電用原子炉及びその付属施設の技術基準に関する規則」（以下、「技術基準規則」という。）の関連各条項に適合することを、設備ごとに「第 14, 15, 38 条に対する適合性の整理表」及び「第 54 条に対する適合性の整理表」（以下、前記 2 つを併せて「整理表」という。）の形にまとめ、適合性を確認している。

整理表中の確認項目のうち、環境条件における健全性に係る項目（第 14 条第 2 項及び第 54 条第 1 項第 1 号）を除く項目に関しては、整理表に記載された内容及び工認添付資料 V-1-1-6 その他工認図書を参照することにより適合性を確認することができる。一方、環境条件における健全性に係る項目に関しては、整理表に記載された内容及び工認図書を参照するほか、類型化して整理した適合性確認の手法（以下、「類型化による適合性確認手法」という。）を用いて機器の適合性を確認する。本資料は、類型化による適合性確認手法について補足的に説明するものである。

環境条件における健全性に関して確認する項目のうち、圧力、温度、湿度、放射性の 4 項目は、類型化による適合性確認手法により確認する項目である。機器の適合性確認、すなわち、使用される条件において機能を発揮できることの確認は、場所における環境条件と機器の環境耐性を比較することを基本手法としているが、類型化による適合性確認手法は、機器の環境耐性の評価に適用している。以下に、圧力、温度、湿度、放射線の 4 項目に係る適合性の確認の手法について説明する。

2. 圧力に係る適合性評価手法

圧力に係る適合性評価の手法は、耐圧部にあつては、機器が使用される環境圧力下において、部材に発生する応力に耐えられることを確認する。耐圧部以外の部分にあつては、絶縁や回転等の機能が阻害される圧力に到達しないことを確認する。

確認の手法は、機器雰囲気圧力の許容値あるいは最高使用圧力を機器の圧力耐性値とし、環境圧力と機器の圧力耐性値を比較する方法の他、環境圧力を再現した試験環境下において機器が機能することを確認する実証試験等により耐圧機能、絶縁機能、回転機能、計測機能、伝送機能などの所定の機能を発揮することが確認されている圧力を機器の圧力耐性値とし、環境圧力と機器の圧力耐性値を比較すること等によるものとする。

比較により適合性を確認するに当たり、火災検知器のように、特定の異常を検出する機器の場合は、機器の設置目的の特定の異常の場合とそれ以外の異常の場合で分けると整理しやすい。火災検知器について火災検知信号を発信することについて考慮すると、火災の場合、火災検知までの過程で有意な環境圧力の上昇があることは考えられない。また、火災検知信号発信以降は、火災検知器の機能は期待されない。したがって、火災発生の場合、火災検知器が機能することが期待される圧力は、平常時と差がない。一方、火災以外の場合、原子炉施設の故障の従属事象として火災検知器の環境圧力が上昇する場合はあ

る。その際、環境圧力の上昇により火災検知器の機能が低下したとしても、当該事象は、原子炉施設の故障として異常が検出される。また、原子炉施設の故障を伴わずに、自然現象のみによる異常によって火災検知器の環境圧力が上昇する事象は、設計上考えられない。整理すると、異常時に機器が機能することは、平常時と同等の圧力下においてであるか、あるいは、機器の異常として検出可能であるかであるため、機器の圧力耐性値と比較する環境圧力は、発電用原子炉施設が通常の運転状態にあるときの圧力とする。

環境圧力条件と比較する機器の圧力耐性値は下記の通りである。評価手法(2)において実証試験を用いたものは、その内容を別紙-1に示す。

(1) 圧力仕様（機器雰囲気圧力の許容値、最高使用圧力）

※ 評価対象機器のうち、耐圧部にあつては最高使用圧力とする。雰囲気圧力は機器の外圧、最高使用圧力は機器の内圧であるが、機器の応力に寄与する圧力は内外圧力差であり、内外圧力差による応力評価より内圧による応力評価の方が保守的な評価となるため、最高使用圧力を機器の圧力耐性値とする。

※ 評価対象機器のうち、仕様として圧力仕様が設定されていないものについては、圧力仕様（圧力耐性）を「大気圧」と設定する。

(2) 実証試験により機器の健全性が確認されている圧力（試験が型式代表試験方式の場合を含む）

(3) 設置変更許可段階において格納容器内雰囲気 200 °C、2 Pd における健全性確認が行われた原子炉格納施設の内部機器にあつては、2 Pd

環境圧力条件と単純な圧力比較をすることが適切でない場合においては、別の方法で機器の機能が損なわれてないことを確認した。

(4) 耐圧部がなく、環境圧力の影響を受けない構造の機器については、機能が損なわれないものとする。

(5) 環境圧力下において構成材料に生じる応力に構成材料の構成材が耐えること。

3. 温度に係る適合性評価手法

温度に係る適合性評価の手法は、耐圧部にあつては、機器が使用される環境温度下において、部材に発生する応力に耐えられることを確認する。耐圧部以外の部分にあつては、絶縁や回転等の機能が阻害される温度に到達しないことを確認する。

確認の手法は、機器周囲温度の許容値や機器の最高使用温度を機器の温度耐性値とし、

環境温度と機器の温度耐性値を比較することの他、環境温度を再現した試験環境下において機器の耐圧機能、絶縁機能、回転機能などの所定の機能を発揮することが確認されている温度を機器の温度耐圧値とし、環境温度と機器の温度耐性値を比較すること等によるものとする。

比較により適合性を確認するに当たり、火災検知器のように、特定の異常を検出する機器の場合は、機器の設置目的の特定の異常の場合とそれ以外の異常の場合で分けると整理しやすい。火災等の発生時に信号を発信する装置であって、一度信号を発信すれば、それ以降の機能が期待されない機器にあっては、火災の場合、火災検知信号の発信以降の温度上昇過程における機能が期待されないため、信号を発信する温度が機器の機能を期待する温度の上限値となる。この場合、機器が火災検知信号を発信する環境温度下において機能することは、設計上自明である。一方、火災以外の場合、原子炉施設の故障の従属事象として火災検知器の環境温度が上昇する場合がある。その際、環境温度の上昇により火災検知器の機能が低下したとしても、当該事象は、原子炉施設の故障として異常が検出される。また、原子炉施設の故障を伴わずに、自然現象のみによる異常によって火災検知器の環境温度が上昇する事象は、設計上考えられない。整理すると、異常時に機器が機能することは、自明であるか、平常時と同等の温度下においてであるか、あるいは、機器の異常として検出可能であるかの何れかであるため、機器の温度耐性値と比較する環境温度は、発電用原子炉施設が通常の運転状態であるときの温度とする。

環境温度と比較する機器の温度耐性値は下記の通りである。評価手法(2)又は(3)において実証試験を用いたものは、その内容を別紙-1に示す。

(1) 温度仕様（機器周囲温度の許容値、最高使用温度）

※ 評価対象機器のうち、屋外で使用することが前提で設計されている機器であって、仕様として温度仕様（温度耐性）が設定されていないものについては、温度仕様を「大気温度」と設定する。この場合、比較対象の環境温度条件は、機器の周囲の大気温度であって、この温度はプラント挙動の影響を受けないため、「大気温度」と設定される。

(2) 実証試験により機器の機能維持が確認されている温度（試験が型式代表試験方式の場合を含む）

(3) 実証試験等により構成部品の機能維持が確認されている温度

(4) 文献等により健全性が確認されている温度

- 日本機械学会 発電用原子力設備規格「コンクリート製原子炉格納容器規格（2011）」

- 「高温（175℃）を受けたコンクリートの強度性状」（セメント・コンクリート No.449, July1984）

- (5) 設置変更許可段階において格納容器内雰囲気 200℃、2Pd における健全性確認が行われた原子炉格納施設の内部機器にあつては、200℃

環境温度条件と単純な温度比較をすることが適切でない場合においては、環境温度条件下において機器の内部部品の温度上昇等が生じた場合であっても機器の機能が損なわれないことを、下記に示す規格等に基づく評価計算等により確認することとする。この場合、機器の機能が損なわれないことを確認した環境温度条件を機器の温度耐性値とする。

- (6) 電気学会 電気規格調査会標準規格「誘導機」（JEC-37-1979, JEC-2137-2000）に基づき、環境温度における電動機固定子及び軸受の温度（上昇）が限度内であること。

- (7) 電気学会 電気規格調査会標準規格「変圧器」（JEC-2200-1995）に基づき、環境温度における変圧器の寿命が役務期間（事故に対処する場合は、1～2週間）に比べて十分に長いこと。

- (8) 環境温度下において構成材料に生じる応力に構成材料の構造材が耐えること。
なお、原子炉棟に設置する高圧窒素ポンプの最高使用温度の考え方を別紙-2に示す。

また、上記による方法が適切でない場合においては、別の方法で機器の機能が損なわれないことを確認することとする。

- (9) 環境温度が機器に及ぼす影響とプロセス流体が機器に及ぼす影響が相反する場合、影響の程度を比較し、環境温度の有意な影響の有無について評価することとする。プロセス流体が低温であり、機器が使用される条件下ではプロセス流体の流量、比熱、熱容量、熱伝達率が格段に大きい場合は、環境温度による有意な影響はなく、機器の機能に係る温度はプロセス流体温度に支配されるものとする。

4. 湿度に係る適合性評価手法

湿度に関しては、機器が長期間にわたり高湿度環境下に置かれた場合、カビの発生により電子基板上のような露出した電気回路の電路間で短絡が生じることや、錆の発生により露出した電気回路の電路の断線が生じること等があり得ることから、機器の設計上の

配慮として、高湿度の国や地域で使用される機器には、カビや錆の発生を防止するための塗料が塗布される等の特殊な仕様が施される場合がある。国内で使用される機器の周囲環境の湿度許容値は、機器を設置場所に長期間設置した場合に、カビや錆による不具合を防止できることを意図して設定される。環境湿度下における機器の健全性を考慮する場合は、湿度自体に加え、機器が使用される状態に応じて使用される期間も考慮に入れることとする。

湿度に係る適合性評価の手法は、耐圧部にあつては、耐圧部の設計規格の関係から、当該構造部は気密性・水密性を有し、一定の肉厚を有する金属製の構造となるよう設計される。このことから、耐圧部は、相対湿度 100%条件下において腐食速度が増加する等の湿度の影響下であっても耐圧機能は維持される。耐圧部以外の部分にあつては、必要に応じて、全閉型モータに代表されるように、機器の外装を気密性の高い構造とし、機器内部を周囲の空気から分離することや、遮断器盤に代表されるように、機器の内部にヒーターを設置し、内部空気を加温して相対湿度を低下させること等により、電氣的絶縁や導通に代表される機器の機能が阻害される湿度に到達しないことを確認する。

確認の手法は、機器雰囲気湿度の許容値を機器の湿度耐性値とし、環境湿度と機器の湿度耐性値を比較することのほか、環境湿度を再現した試験環境下において機器が機能することを確認する実証試験等により機器の機能を発揮することが確認されている湿度を機器の湿度耐性値とし、環境湿度と機器の湿度耐性値を比較すること等によるものとする。

比較により適合性を確認するに当たり、火災検知器のように、異常を検出する機器の場合は、圧力や温度の項目と同様の考え方により、機器の湿度耐性値と比較する環境湿度は、発電用原子炉施設が通常の運転状態にあるときの湿度とする。

環境湿度と比較する機器の湿度耐性値は下記の通りである。評価手法(3)において実証試験を用いたものは、その内容を別紙-1に示す。

(1) 湿度仕様

※ 評価対象の機器のうち、次のような設計がなされている機器については、機器の湿度耐性値は相対湿度 100%とした。

- 水又は湿気と接触することを前提として設計されている機器
- 屋外での使用を前提として設計されている機器
- IP65 等の防水規格品

※ 湿度に関しては、機器仕様として湿度の許容値を明示されることなく流通している製品は多い。しかしながら、NFB 等の標準使用条件は湿度 85%である。半導体の JEITA 規格に基づく高温高湿バイアス試験では、相対湿度 85%以上の湿度条件下で試験が実施され、不飽和蒸気加圧試験では 85%の湿度環境下で試験

が実施される。また、型番を付されて日本国内で流通している製品の場合、同型の製品が既に日本国内の湿度環境に耐えている。これらのことから、湿度仕様が明示されない型番製品については、湿度環境下における長期の湿度耐性値は、85%とする。

- (2) 耐圧部および支持構造のみで構成される機器については、機器の湿度耐性値は相対湿度 100%とする。
- (3) 実証試験により機器の健全性が確認されている湿度（試験が型式代表試験方式の場合を含む）
- (4) 機器の周囲湿度の許容値は、機器の寿命程度の期間（十数年～数十年）程度の雰囲気暴露期間を想定して設定されたものである。機器の周囲湿度の許容値は、カビの繁殖や発錆による腐食の進行には時間を要することから、1～2 週間の期間について考慮する場合、カビや錆を介した電気品の不具合の原因となることはなく、金属で構成される機器についても不具合の原因となるものはないため、機器の湿度耐性値は相対湿度 100%とする。

5. 放射線に係る適合性評価手法

放射線に係る適合性評価の手法は、構造材にあつては、耐圧機能や支持機能が環境放射線下において維持されることを確認する。構造材のうち、金属構造材やコンクリートは原子炉本体の構造材や支持構造物としてきわめて高い放射線量の下で数十年の使用に耐えるため、構造材を構成する材料のうち、パッキン等に代表される放射線耐性の低い部材に注目して評価を実施することとする。構造材以外の部分にあつては、機器の機能が阻害される放射線量に到達しないことを確認する。

機器の放射線耐性は、累積放射線に応じて部材の性能が変化することから、機器の放射線耐性を累積放射線量で値付けしたものが機器の放射線耐性の基準である。中性子以外の放射線照射について評価する場合、照射速度に対する依存性はないものとし、機器の放射線に対する耐性値は照射速度によらず一定とする。機器の放射線耐性値は、累積放射線量の形で得られるが、累積放射線量では環境放射線条件として値付けされている線量率と比較できないため、機器の放射線耐性を値付けした線量を機器が使用される期間を用いて線量率に換算する。適合性の確認手法は、環境放射線量率と線量率で表した機器の放射線耐性を比較することとする。

なお、原子炉施設の通常運転中に有意な放射線環境に置かれる機器にあつては、通常運転時などの事故以前の状態において受ける放射線量分を事故時の線量率に割増すこと等により、事故以前の放射線の影響を評価することとする。

比較により適合性を確認するに当たり、火災検知器のように、異常を検出する機器の場合は、圧力や温度の項目と同様の考え方により、機器の放射線耐性値と比較する環境放射線量は、発電用原子炉施設が通常の運転状態にあるときの放射線量とする。

環境放射線条件と比較する機器の放射線耐性値は下記の通りである。評価手法(1)若しくは(2)において実証試験を用いたものは、その内容を別紙-1に示す。

- (1) 実証試験により機器の機能維持が確認されている線量率（試験が型式代表試験方式の場合を含む）
- (2) 実証試験、文献等で構成部品の機能維持が確認されている線量率
- (3) 耐性の低い部品（電子部品）の機能が維持される線量率
- (4) 金属材料又はコンクリートのみで構成しているタンク、ピット等は、当該設備に期待する期間において放射線により機能を損なう構造でないことは明らかであるため、健全性が維持できるとする。このとき設計値は、便宜上、環境条件と同値としておく。

以上

重大事故等時における健全性評価に用いた実証試験

重大事故等対処設備の環境条件における健全性評価手法のうち、圧力評価の評価手法(2)、温度評価の評価手法(2)若しくは(3)、湿度評価の評価手法(3)又は放射線評価の評価手法(1)若しくは(2)については、実証試験により設備の設計値（耐性値）を確認している。

これらの実証試験の内容を表 1-1～4 に示す。なお、放射線設計値（耐性値）について、実証試験結果と文献の組み合わせにより健全性を確認した設備については、これらを合わせて記載する。

実証試験は、「原子力発電所の安全系電気・計装品の耐環境性能の検証に関する指針」（JEAG4623（2008））、「Standard for Qualifying Class 1E Equipment for Nuclear Power Generating Stations」（IEEE323（1974））等の規定に従い、「放射線試験」と「蒸気暴露試験（圧力、温度、湿度が重畳）」をそれぞれ実施している。

表 1-1 重大事故等対処設備の圧力設計値（耐性値）設定に用いた実証試験

設備名	圧力評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
原子炉圧力容器温度		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
ドライウェル雰囲気温度		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・チェンバ雰囲気温度		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・プール水温度		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器下部水温		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器下部水位		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
静的触媒式水素再結合器動作監視装置		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プールエリア放射線モニタ(高レンジ・低レンジ) ※高レンジ		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プールエリア放射線モニタ(高レンジ・低レンジ) ※低レンジ		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉圧力 (SA)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位 (広帯域)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位 (燃料域)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位 (SA広帯域)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位 (SA燃料域)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧代替注水系系統流量		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量 (常設ライン用)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量 (常設ライン狭帯域用)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量 (可搬ライン用)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量 (可搬ライン狭帯域用)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系原子炉注水流量		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系系統流量		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	圧力評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
高圧炉心スプレイ系系統流量		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系系統流量		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系系統流量		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系格納容器スプレイ流量(常設ライン用)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系格納容器スプレイ流量(可搬ライン用)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系格納容器下部注水流量		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
ドライウェル圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・チェンバ圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・プール水位		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系ポンプ入口温度		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系格納容器スプレイ流量		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系熱交換器入口温度		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系熱交換器出口温度		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用窒素供給系供給圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用窒素供給系高圧窒素ポンベ圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用逃がし安全弁駆動系供給圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用逃がし安全弁駆動系高圧窒素ポンベ圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧炉心スプレイ系ポンプ吐出圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系ポンプ吐出圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系ポンプ吐出圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系ポンプ吐出圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器雰囲気放射線モニタ(D/W)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器雰囲気放射線モニタ(S/C)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	圧力評価	評価 手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
フィルタ装置出口放射線モニタ (高レンジ・低レンジ) ※低レンジ		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モニタ (高レンジ・低レンジ) ※高レンジ		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替淡水貯槽水位		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置水位		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置圧力		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置スクラビング水温度		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モニタ (高レンジ・低レンジ) ※高レンジ (屋外)		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
耐圧強化ベント系放射線モニタ		2			想定される環境圧力での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

表 1-2 重大事故等対処設備の温度設計値（耐性値）設定に用いた実証試験

設備名	温度評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
原子炉圧力容器温度		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
ドライウェル雰囲気温度		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・チェンバ雰囲気温度		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・プール水温度		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器下部水温		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器下部水位		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
逃がし安全弁		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
制御棒駆動系水圧制御ユニット		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替燃料プール冷却系ポンプモータ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧炉心スプレイ系ポンプモータ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系ポンプモータ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系ポンプモータ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器内水素濃度（SA）		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器内酸素濃度（SA）		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
静的触媒式水素再結合器動作監視装置		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉建屋水素濃度※熱伝導式		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）※高レンジ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）※低レンジ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉圧力（SA）		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位（広帯域）		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位（燃料域）		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

注記*：有効性評価の原子炉格納容器内の気相温度を基に、試験開始～5分：235℃、5分～7日：200℃の条件で試験を実施した。

設備名	温度評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
原子炉水位 (SA広帯域)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位 (SA燃料域)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧代替注水系系統流量		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量 (常設ライン用)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量 (常設ライン狭帯域用)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量 (可搬ライン用)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量 (可搬ライン狭帯域用)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系原子炉注水流量		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系系統流量		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧炉心スプレイ系系統流量		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系系統流量		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系系統流量		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系格納容器スプレイ流量 (常設ライン用)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系格納容器スプレイ流量 (可搬ライン用)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系格納容器下部注水流量		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
ドライウェル圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・チェンバ圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・プール水位		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系ポンプ入口温度		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系格納容器スプレイ流量		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系熱交換器入口温度		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系熱交換器出口温度		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用窒素供給系供給圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	温度評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
非常用窒素供給系高圧窒素ポンベ圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用逃がし安全弁駆動系供給圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用逃がし安全弁駆動系高圧窒素ポンベ圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧炉心スプレイ系ポンプ吐出圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系ポンプ吐出圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系ポンプ吐出圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系ポンプ吐出圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
緊急用電源切替盤		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器雰囲気放射線モニタ (D/W)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器雰囲気放射線モニタ (S/C)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モニタ (高レンジ・低レンジ) ※低レンジ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モニタ (高レンジ・低レンジ) ※高レンジ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替淡水貯槽水位		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置水位		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置圧力		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置スクラビング水温度		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モニタ (高レンジ・低レンジ) ※高レンジ (屋外)		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
耐圧強化ベント系放射線モニタ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
125V 系蓄電池 A 系		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
125V 系蓄電池 B 系		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
125V 系蓄電池 H P C S 系		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
緊急用 125V 系蓄電池		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
中性子モニタ用蓄電池 A 系		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	温度評価	評価 手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
中性子モニタ用蓄電池B系		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
β 線サーベイ・メータ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
ZnSシンチレーションサーベイ・メータ		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プール監視カメラ用空冷装置		2			想定される環境温度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

表 1-3 重大事故等対処設備の湿度設計値（耐性値）設定に用いた実証試験

設備名	湿度評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
原子炉圧力容器温度		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
ドライウェル雰囲気温度		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・チェンバ雰囲気温度		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・プール水温度		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器下部水温		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器下部水位		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替燃料プール冷却系ポンプモータ		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧炉心スプレイ系ポンプモータ		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系ポンプモータ		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系ポンプモータ		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器内水素濃度（SA）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器内酸素濃度（SA）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
静的触媒式水素再結合器動作監視装置		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉建屋水素濃度※熱伝導式		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）※高レンジ		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）※低レンジ		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉圧力（SA）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位（広帯域）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位（燃料域）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位（SA広帯域）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位（SA燃料域）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	湿度評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
高压代替注水系系統流量		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低压代替注水系原子炉注水流量（常設ライン用）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低压代替注水系原子炉注水流量（常設ライン狭帯域用）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低压代替注水系原子炉注水流量（可搬ライン用）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低压代替注水系原子炉注水流量（可搬ライン狭帯域用）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系原子炉注水流量		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系系統流量		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高压炉心スプレイ系系統流量		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系系統流量		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低压炉心スプレイ系系統流量		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低压代替注水系格納容器スプレイ流量（常設ライン用）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低压代替注水系格納容器スプレイ流量（可搬ライン用）		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低压代替注水系格納容器下部注水流量		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
ドライウェル圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・チェンバ圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・プール水位		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系ポンプ入口温度		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系格納容器スプレイ流量		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系熱交換器入口温度		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系熱交換器出口温度		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用窒素供給系供給圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用窒素供給系高压窒素ポンベ圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用逃がし安全弁駆動系供給圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	湿度評価	評価 手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
非常用逃がし安全弁駆動系 高圧窒素ポンプ圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧炉心スプレイ系ポンプ 吐出圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系ポンプ 吐出圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系ポンプ吐出圧 力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系ポンプ 吐出圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
緊急用電源切替盤		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器雰囲気放射線モニ タ (D/W)		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器雰囲気放射線モニ タ (S/C)		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モ ニタ (高レンジ・低レンジ) ※低レンジ		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モ ニタ (高レンジ・低レンジ) ※高レンジ		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替淡水貯槽水位		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置水位		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置圧力		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置スクラビング 水温度		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モ ニタ (高レンジ・低レンジ) ※高レンジ (屋外)		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
耐圧強化ベント系放射線モ ニタ		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プール監視カメ ラ用空冷装置		3			想定される環境湿度での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

表 1-4 重大事故等対処設備の放射線設計値（耐性値）設定に用いた実証試験

設備名	放射線評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
制御棒駆動機構		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉圧力容器温度		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
ドライウェル雰囲気温度		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・チェンバ雰囲気温度		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・プール水温度		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器下部水温		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器下部水位		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器内水素濃度（S A）		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器内酸素濃度（S A）		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
静的触媒式水素再結合器動作監視装置		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉建屋水素濃度※熱伝導式		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉建屋水素濃度※触媒式		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）※高レンジ		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プールエリア放射線モニタ（高レンジ・低レンジ）※低レンジ		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉圧力（S A）		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位（広帯域）		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位（燃料域）		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位（S A広帯域）		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉水位（S A燃料域）		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧代替注水系系統流量		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	放射線評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
低圧代替注水系原子炉注水流量(常設ライン用)		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量(常設ライン狭帯域用)		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量(可搬ライン用)		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系原子炉注水流量(可搬ライン狭帯域用)		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系原子炉注水流量		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系系統流量		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧炉心スプレイ系系統流量		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系系統流量		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系系統流量		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系格納容器スプレイ流量(常設ライン用)		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系格納容器スプレイ流量(可搬ライン用)		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧代替注水系格納容器下部注水流量		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
ドライウェル圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・チェンバ圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
サブプレッション・プール水位		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系ポンプ入口温度		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系格納容器スプレイ流量		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系熱交換器入口温度		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系熱交換器出口温度		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用窒素供給系供給圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用窒素供給系高圧窒素ポンベ圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用逃がし安全弁駆動系供給圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用逃がし安全弁駆動系高圧窒素ポンベ圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	放射線評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
高圧炉心スプレイ系ポンプ吐出圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系ポンプ吐出圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系ポンプ吐出圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系ポンプ吐出圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器雰囲気放射線モニタ (D/W)		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
格納容器雰囲気放射線モニタ (S/C)		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モニタ (高レンジ・低レンジ) ※低レンジ		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モニタ (高レンジ・低レンジ) ※高レンジ		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替淡水貯槽水位		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置水位		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置圧力		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置スクラビング水温度		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置出口放射線モニタ (高レンジ・低レンジ) ※高レンジ (屋外)		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
耐圧強化ベント系放射線モニタ		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
逃がし安全弁		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧炉心スプレイ系ポンプ		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
常設低圧代替注水系ポンプ		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	放射線評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
残留熱除去系ポンプ		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系ポンプ		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
移送ポンプ		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替燃料プール冷却系ポンプ		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
制御棒駆動系水圧制御ユニット		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系蒸気供給弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系ポンプ		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧代替注水系タービン止め弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
常設高圧代替注水系ポンプ		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
高圧炉心スプレイ系注入弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
原子炉隔離時冷却系原子炉注入弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
低圧炉心スプレイ系注入弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	放射線評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
残留熱除去系A系注入弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系B系注入弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系C系注入弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替循環冷却系ポンプ		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
残留熱除去系熱交換器		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
第一弁（S/C側）		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
第一弁（D/W側）		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
耐圧強化ベント系一次隔離弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
耐圧強化ベント系二次隔離弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

設備名	放射線評価	評価手法	実証試験内容		
			体制	実施時期	内容
第二弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
第二弁バイパス弁		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
フィルタ装置入口水素濃度		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用ガス処理系排風機		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用ガス処理系フィルタトレイン		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用ガス再循環系排風機		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
非常用ガス再循環系フィルタトレイン		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
常設スプレイヘッド		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
代替燃料プール冷却系熱交換器		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プール水位・温度（SA広域）		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プール温度（SA）		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
使用済燃料プール監視カメラ		1			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
ブローアウトパネル開閉状態表示		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
緊急用電源切替盤		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
中央制御室換気系空調和機ファン		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
中央制御室換気系フィルタ系ファン		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。
中央制御室換気系フィルタユニット		2			想定される環境放射線での機能維持を確認しており、健全性を維持できる。

原子炉棟に設置する高圧窒素ポンベの最高使用温度の考え方について

1. はじめに

本資料は、原子炉棟に設置する非常用逃がし安全弁駆動系及び非常用窒素供給系の高圧窒素ポンベ（以下、「ポンベ」という。）の最高使用温度の考え方を整理したものである。

2. 最高使用温度の考え方

ポンベは、高圧ガス保安法適合品を設置する。そのため、高圧ガス保安法にて規定している一般高圧ガス保安規則に基づき、40℃を最高使用温度としている。

3. 環境温度条件下での健全性

ポンベは原子炉棟内に設置されており、当該区画の環境温度は65.6℃と設定されていることから、環境温度65.6℃における設備の健全性について評価を行った。

ポンベの最高充てん圧力は35℃において14.7 MPaであることから、環境温度である65.6℃まで窒素ガスの温度が上昇し膨張した場合、ポンベ内の圧力は下式のとおり約16.2 MPaまで上昇する。

$$14.7 \times \frac{65.6 + 273.15}{35 + 273.15} \approx 16.2 \text{ MPa}$$

上記の圧力は、ポンベの耐圧試験圧力24.5 MPa及びポンベに付属している安全弁の作動圧力（16.7～19.6 MPa）を下回っていることから、仮に環境温度65.6℃となった場合においてもポンベの機能が損なわれることはない。

以上